



ち、のち、いのち。

献血は、輸血を必要としている人にとっての「命綱」です。

しかし、若者の献血離れや、さらには新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛で、県内の献血は大変厳しい状況となっています。

そこで、沖縄県赤十字血液センターのスタッフさんから、献血の必要性について話を伺いました。

輸血は100%献血が頼り

輸血用血液を毎日必要としている人は全国で約3000人、県内で約160人もいます。病気で健康な血液をつくれないうや、大量出血を伴う手術で体から大量に血液が失われたときなどに使われます。1番多く使われるのはガン治療です。輸血用血液は100%献血でまかなわれており、献血によって、多くの尊い命が救われています。

輸血用血液は毎日確保する必要があります

みなさんから献血していただいた血液



九州各県から届けられた血液



沖縄県赤十字血液センター 献血推進課推進係 山内 清志 係長

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で献血バスの配車キャンセルが相次いだため、4～5月は前年に比べ、特に400ml献血の献血者数が大幅に減少しました。那覇市内でもキャンセルは相次ぎました。



赤血球製剤

は、短いものと4日間しか保存することができません。かつ、血液は人工的に造ることができません。

そのため、365日毎日、献血で輸血用血液を確保する必要があります。

が、「ゆいまーる精神」で「こんなときだからこそ協力したい」と声をあげてくださった団体もありました。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございます。

しかし、新型コロナウイルスの影響は今後も続くことが予想されます。献血会場では検温、手指消毒、換気などの対策を実施していますので、患者さんに安定的に血液を届けるためにも、引き続き献血への協力が必要となります。

県民が県民を救う「自県自給」

沖縄県は九州ブロックとして、九州8県で輸血用血液をまかないあっています。

コロナウイルスが流行する前の沖縄県は、他県に比べて安定した血液供給ができていました。しかし、今年度は大変厳しい状況にあり、他県から血液を分けてもらっている状況です。

自分たちの県の患者さんの血液は自分たちで何とかするという「自県自給」という言葉を心に留めていただきたいと思います。



県内の多くの病院へ輸血を届ける

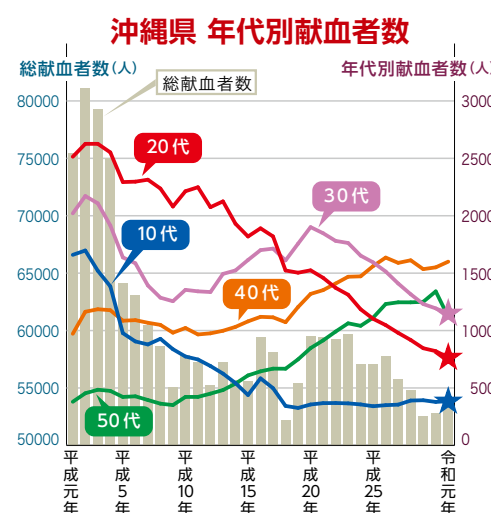


沖縄県赤十字血液センター 献血推進課 眞喜志 淳 課長

若い人の献血が年々減少中

左のグラフは、平成元年から令和元年までの年代別の献血者数をグラフ化したものです。

平成元年では20代が一番多く、10代も全体で3番目だったのに対し、現在はどうぞん右肩下がりになっています。20代は30%、10代に至っては23%まで減少しています。また、県内では30代も減少傾向となっていることが懸念されています。



那覇市民のみなさんへ

現在、病気で苦しんでいる患者さんを救うためには、みなさんの協力が必要不可欠です。自分や家族、大切な人が輸血を必要とする時がいつかやってくるかもしれません。「誰かがやる」とひとごとと思わずに、「明日は我が身」という意識を持っていただけたらと思います。

確かに献血は針を刺す際にチクッと痛みが伴います。しかし、その先には毎日病氣と闘い続けている患者さんを助けることに繋がっているのです。みなさんの優しさによって救われる命が必ずあります。

今後、ご自身の高校や専門学校、大学、会社、または街中で献血バスを見かけたら、少しの勇気をだして「命を救うボランティア献血」に参加してみませんか？



輸血を受けた方やそのご家族からのお礼の手紙の一部を紹介します。

1歳で輸血が必要だった息子は、何度モ何度モみなさんから頂いた血液で危機を乗り越えられました。血液は作れない、人の善意で成り立っていることを聞きました。

今、このレターを読んでいらっしゃる方、今まで献血された方やこれから献血しようと思っていられっしゃる方へありがとうございます。痛いの血を分けてくださり、感謝の思いでいっぱいです。

28歳の誕生日を目前に突然のがん告知。少し不安もありましたが、何よりも「生きる！生きたい！！生きていきたい！！」という気持ち強く、沢山の方の支えの中、無事治療、そして移植を受けることができました。抗がん剤での治療中は、あまりの辛さに何度も心が折れそうになりましたが、支えてくれている人(献血に協力されている方々)の温かい優しさのお陰もあり、こうして乗り越えることができました。

命が延びて今年で6年、献血に協力いただいた貴方様に心より感謝いたします。希望をありがとうございます。

息子は先天性の心臓病で、2歳と19歳の手術時に、2回輸血をしていただきました。息子は生まれてから今まで色々大変な時を過ごしてきましたが、多くの方々の献血のおかげで、今は元気に学生生活を送っています。親として心から感謝しております。多くの方々が献血に協力していただける事により、幸せになる家族がいる事を知っていたきたいと思っています。